

平成27年度 香川大学大学院入学式 学長告辞

本日、香川大学大学院に入学される283名の皆さん、誠におめでとうございます。

本入学式に列席している理事、副学長、研究科長及び教職員とともに、皆さんの入学をお祝いいたします。

さて、皆さんは、今日のこの日を、強い志をもって迎えられていることと思います。大学院では、この研究に打ち込みたいと具体的な思いがある方も、また、まだ漠然と充実した大学院生活を送りたいと考えられている方もいるかもしれません。皆さんもご存知のとおり、大学院は学部とは違い、より高度で専門性を持った教育、研究を行うところです。学部教育で培った知識や経験などの基盤を活かして、自らが課題を見つけ、また、その解決に向けて、ひたすら真摯に探求を続けることが強く求められるようになります。

大学院は学部よりも修学期間が短く、2年、工学研究科博士後期課程で3年、医学系研究科博士課程でも4年です。人生で考えればほんの一瞬とも言えましょう。この限られた期間をいかに充実したものにできるかは、まさに皆さんの強い志にかかっています。

イギリスの政治家、チェスターフィールドは言っています。「時間の

価値を知れ。あらゆる瞬間をつかまえて享受せよ。今日できることを明日まで延ばすな。」彼は18世紀の人間ですが、とにかく時間は有効に過ごすべきだと説きました。

21世紀に生きる我々は、おそらくその当時からは想像もできないほどの情報にあふれた社会にいます。次から次へと目まぐるしく動いているこの社会にあって、時間は無駄にできません。ましてや、皆さんが大学院における自らの学修や研究で成果をあげようとするれば、一瞬たりとも無駄にはできないでしょう。

時間は過ごし方により、金にもなり、また、鉛にもなり得ます。長い人生のうち、一心不乱に何かに取り組む時代があっても良いと思います。それは必ず自分の血となり肉となります。

一方、最近残念ながら、科学者の研究不正が社会・市民の信頼を損ねる事態が発生しています。英国王立協会会長のポール・ナース氏は“私も実験で仮説と矛盾するデータがあった時、夢に天使と悪魔が現れた。悪魔は合わないデータを落とせとささやき、天使は真実を追究しなければいけないと言った”と言っています。さらに“研究不正は科学を弱体化させる最も重要な要素だ”とも言っています。ヒトは得てして都合のよいデータに目を奪われますが、不都合なデータの中に真実が隠されているとも言われています。何が真実か冷静に

評価する科学の心を涵養することは、皆さんのこれからの人生において最も大切なことです。

最後に、本田宗一郎氏の言葉を贈りたいと思います。

「チャレンジして失敗を怖れるよりも、何もしないことを恐れよ。」

私もそのとおりだと思います。若い時の失敗など何も怖れる必要はありません。むしろ何度も何度も失敗を繰り返した人の方が、人間的にも強くなり、また、最後には成功することもできるでしょう。

この限られた大学院時代に、できるだけ多くのチャレンジをしてください。考えてください。また、時には悩んでください。失敗を怖れて何もしないことこそが、一番怖いことです。

本日、香川大学大学院に入学された皆さんが、これから多くのことを身につけ、夢と希望と大きな自信を持って、将来、この21世紀社会で活躍されることを心から期待し、告辞いたします。

平成27年4月4日

香川大学長 長尾 省吾